

国際的評価を受けるよう努力している。日本は世界的にみても歯科技術の高い国であり、アジア各国から注目を浴びているにも関わらず、日本国内では元気がない事が気になる。これからはアジアの歯科医療が日本を中心としてグローバル化し、そして何よりも日本国内で歯科医師が高く評価されるような仕事をしていきたい。更に、現在行っている教育、診療、研究を発展させ、また口腔医学の発展に寄与できるような人材を育成したいと考えている。



長崎大学

大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学講座のこの10年の変遷

長崎大学大学院医歯薬学総合研究科小児歯科学講座はちょうど10年前の2002年に前任の後藤譲治教授から現任の藤原 卓教授にバトンタッチしました。この10年間の人事異動として、2004年9月に福本 敏講師（現・東北大学歯学研究科教授）が九州大学歯学研究院口腔保健推進学分野助教授に栄転され、後任として九州大学歯学研究院より2005年2月に佐々木康成が講師に就任しました。その後、佐々木康成講師は2010年3月に退局され、神奈川県立こども医療センター歯科科長に栄転されました。2007年8月に久保田一見講師が退局されて慶応大学形成外科に異動し、後任として2007年11月より星野倫範が講師に昇任しました。2005年には末藤千香子助手、2006年には

新川弘恵助手がそれぞれ退職されました。2004年には湯浅健二助手が、2005年には山田亜矢助手（現・東北大学歯学研究科准教授）が同じく九州大学に異動されました。2011年には小西郁理助教が退職されました。2013年1月には齋藤 幹助教が東北大学歯学研究科に異動されました。現在（2013年3月）は、教授1名、准教授1名、講師1名、助教4名、大学院生1名の体制で臨床、研究、学生教育を行っています。

長崎大学病院小児歯科室では、0歳から青少年期までのすべての子どもたちを対象として歯科治療を行っています。とくに障害や病気のある子どもたちに対しては長崎県障害者歯科協力医システムの第三次医療機関として、地域の小児歯科医療の拠点となり、長崎県下の子どもたちの歯科保健医療の向上に繋がるよう日々取り組み、地域の二次医療機関だけでなく、開業医の先生とも連携を図っております。こうした取り組みの一つとして当診療室では、全身麻酔下での歯科治療にも力を入れています。集計を開始した2005年には15症例であったものが年々増加し、2012年には37症例の全身麻酔下歯科治療を行いました。また、紹介率も2012年では他院からの紹介が76%となり、長崎市内だけではなく、五島などの離島をはじめ島原市や佐世保市、県外では佐賀県からも紹介を受けるようになりました。また、地域の小児歯科医との連携を強化する取り組みとして、長崎小児歯科臨床医会に参画し、定例発表会で小児歯科に関する知見を深めると共に行政関連の情報交換も行って、地域の小児歯科医療のレベルアップにも貢献できるよう取り組んでいます。

研究では、（1）齲蝕および歯周病の病原因子の分子生物学的解明、（2）歯、顎顔面頭蓋の成長発育に関する分子生物学的解明、（3）乳歯と幼若永久歯に対するレジンの接着性、（4）歯と審美的歯冠修復材の色彩学的研究などをテーマとして行っています。それらの成果として、日本小児歯科学会Lion Award 学術賞を福本 敏（2004年）、星野倫範（2011年）が受賞し、日本小児歯科学会奨励賞を星野倫範（2005年）、齋藤 幹（2008年）が受賞し、日本小児歯科学会大会優秀発表賞を福本 敏（2002年）、星野倫範（2008年）が受賞し、評価されました。今後は上記のテーマをさらに発展させ、小児歯科だけでなく、口腔医学全体の発展に寄与できるよう研究を進めると共に、これらの研究のエキスパートとなる様な人材の育成、教育を進めていきたいと考えています。